GAKUSEI TANTOSHAHO

学生担当者報 1

Vol.383

発行／天理教学生担当委員会　発行責任者／松村孝吉　編集責任者／福江弘一
[TEL]0743-63-1511（内線 5817）（直通）0743-63-2489　[FAX]0743-62-5780
[E-Mail] tsa@tenrikyo.or.jp　[TSA website] http://tsa.tenrikyo.or.jp

立教181年
平成30年12月25日発行

学生担当委員会発足四十年記念 学生担当者大会

秋風の心地の良い十一月二十五日、本部第二食堂にて、七百七十四名のご参加と、表統領先生のご列席を賜り、『学生担当委員会発足四十年記念　学生担当者大会』を開催させていただきました。

節目の大会となるこの日、四十年間続けてきてくださった先人先輩のつなぎの心を受け継ぎ、さらに自らが育つ努力を怠らない覚悟を改めて誓い合う、活気に満ち溢れた場となりました。

当日は、表統領先生は「真柱様はいつも、成人とは、親の思召に近づく歩みだと仰せられます。教祖の教えやひながたに自分の考えや態度や行いを合わせていく努力が大切であると、いつもお教えくださいます」「私たち信仰者は、どれほど年齢を重ねて、また経験を重ねても常に求道という上には心を低くして、教祖の教え、ひながたに対して、心を低くしてこの道を求めていかなければなりません。悟りというものは、いくらでも深まっていくということを忘れずに、生涯が成人の歩みの道中だと心得て、また、お互いにそういった心構えを若年層の育成に関わる者の基本姿勢として、同じ思いを持ち合わせていかなければならないと思います。現実に活動としての具体論ももちろん大切なことではありますけれども、まずはそういう意味で育てる側の覚悟ということを申したのであります」と育成する者の角目をお話しくださいました。担当者をはじめ育成に携わる者、共々にしっかりと胸に治め、目的に向かって一年一年成人の歩みを積み重ねていきたいと存じます。

担当者の先生方には、各教会で別席団参などお忙しい中、大会に大勢の方々をお連れくださり、細部に渡り一方ならぬご丹精を賜りましたこと、心より厚く御礼申し上げます。

お知らせ

一月例会

・期日　立教182年1月25日
・時間　15時30分受付　16時開始
・場所　教庁4階講堂

学生層育成者講習会日程・会場案内

【教区】
・兵庫　1月29日13時～　教務支庁
・秋田　1月31日12時～　教務支庁

【直属】
・此花　1月24日11時～　詰所

報告

十一月例会

去る11月25日、第二食堂に於いて「十一月例会」を開催。出席は45教区、167直属。

各地の動き

【教区学生層育成者講習会】
・福島　11月1日　教務支庁　25名　清水委員出向
・京都　11月2日　教務支庁　20名　深谷委員出向
・新潟　11月4日　教務支庁　58名　豊田委員出向
・三重　11月30日　教務支庁　85名　松村委員長出向
・徳島　11月30日　教務支庁　68名　飯降信委員出向

【直属学生層育成者講習会】
・嶽東　11月20日　大教会　255名　福江副委員長出向
・名京　11月22日　大教会　100名　泉委員出向
・西陣　11月23日　大教会　150名　柏原委員出向
・淀　11月23日　分教会　100名　中山祥吉委員出向
・府内　11月24日　大教会　101名　中山祥吉委員出向
・生駒　11月24日　大教会　100名　松村委員長出向

人事

《立教181年11月25日付》

【直属学生担当委員長辞令交付】
・西本旬久（櫻井・櫻南）
・松田善和（城法・今井）
・南本晃成（旭日・鷲尾）
・遠藤道博（岐美・保恩）
・畑田敦子（西・江井）
・岩本敏貴（南・南善）

業務記録

《立教181年11月16日～12月15日》

11月16日　まなびばチーム会議
17日　学生連絡会
21日　事務局連絡会
23日　三誌一括発送（～24日）
24日　研修会チーム会議
人材育成部部会
25日　学生担当委員会発足四十年記念
学生担当者大会
委員会　学生部部会
27日　育成に役立つ研修会（～28日）
12月6日　学修大学の部研究室会議
学修高校卒業生コース研究室会議
春の学生おぢばがえり
プロジェクトチーム会議
ビデオチーム会議
担当者活動部部会
出版部部会
学修部部会
7日　委員会　広報室会議
学修高校の部研究室会議
8日　委員会
まなびば研究室会議
12日　まなびばチーム会議
13日　まなびばチーム会議

本日は、学生担当委員会発足四十年記念と冠しまして、学生担当者大会が開催されますことを大変嬉しく思っておるところであります。また、それぞれにお忙しい中をお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。本来であれば、真柱様がこの席にお立ちになって、それぞれの持ち場立場において、学生さんたちの育成の上に懸命におつとめくださっていることにお労いを申されて、皆さんの役目についての思召をお聞かせいただくところでありましょうが、ご承知の通り、今日はそれが適いませんので、私の立場からご挨拶をさせていただきたく存じます。

あらためまして、皆様方には日頃から学生さんたちの育成の上に、ご尽力をいただいておりますこと、大いにお労いを申し上げると共に、厚くお礼を申し上げる次第であります。誠にありがとうございます。そしてご苦労様でございます。

また、今日は学生担当委員会の発足四十年ということで、四十年の歴史の中に大勢のこれに関わってこられた方々、あるいは、それを応援してくださった皆さん方、大勢の方々の力のおかげで、今日の日を迎えられたということを思いますと、非常に感慨深く、また、これに関しましても深く感謝の思いを感じるところであります。

さて、この学生担当委員会は昭和五十三年、ですから教祖九十年祭の後であります。その当時の指針の一つとして、若年層の育成を推進するために、学生会を後押しすると共に、次代の道を担う学生生徒たちの丹精やお世話取りを進めようということで、その体制の整備を図られて発足したものであります。こう申しますと、その当時の指針として若年層の育成ということを取り上げられているということですが、今と全く同じことであります。今も同じことを大きなテーマに思っているのは、本部だけではなく、教会でも教区でも同じことだと思います。つまり、若年層の育成ということは常時のテーマであると、こういうことだと思います。また、この若年層育成というテーマは「これを持って完了しました」ということのない、永遠の活動でもあるということであります。それは対象となる学生さんたちの顔ぶれが年々変わるわけですから、当然と言えば当然のことであります。その時その時の学生担当委員会の皆さんが中心となって、学生さんたちに働きかける。そして、併せて親御さんや教会長さんたちの協力を得て、一丸となってその時その時の学生さん、生徒さんと相対して育成を図っていこうということに他なりません。

四十年の歴史を重ねてきて、もう誰もが承知していることは「学生生徒の育成は簡単なことではない」ということであります。それは学生の間のことだけではなく、学生の立場や学生会活動を終えてからの彼らを、お道に教会に繋いでいくことの難しさも含めて、やはり容易なことではないということだと思います。相手はここにいる私たちよりも年齢的には若い人たちであります。しかし、若いとはいえ相手のあることですから、やはりそれなりの覚悟を持ってかかることが求められる訳であります。この場合の覚悟とは、覚悟と言うと大げさなのかもしれませんが、まず育てる側である私たちの、私たち自身の成人の姿勢であります。どこまでも私たちがしっかりつとめる姿を、それは直接働きかけるということだけでなく、自分自身の成人という上においても、しっかりとつとめる姿を親神様にお受け取り頂いて、そして親神様のお導きをいただくということ。つまり、親神様に育てていただくということであります。その為には私たち自身が、常に成人を志す姿勢と、その努力が欠かせないということであ

り、これも申すまでもないことであろうかと思います。加えて大切なことは、育てる側の一手一つの合力であります。言うまでもなく、学生担当委員会の力や学生会の活動だけで、学生たちが将来の立派なようぼくに育ってくれるわけではありません。親や教会や、また、上級や兄弟教会なども含めて、そういったところからの、人からの働きかけは言うまでもなく、育てようとするその若者の周りにいる者が、「この子たちに育ってもらいたい」という、そういう願いを持つ周囲の者が、力と心を合わせて丹精することが欠かせないということであります。

また、人材育成ということについて、誰にでも当てはまるようなお手本やマニュアルはありません。学生層育成のマニュアルもありません。唯一のお手本は教祖のひながたであります。教祖のひながたを自分たちの学生担当委員会としての活動、また、我が子を育てる親の心得として、教祖のひながたをどのように育成のひながたと解していくかという、それを求める姿勢もやはり欠かせないことだと思うのであります。真柱様はいつも、成人とは、親の思召に近づく歩みだと仰せられます。教祖の教えやひながたに自分の考えや態度や行いを合わせていく努力が大切であると、いつもお教えくださいます。これは、三代真柱様も同様に、いつも仰っていたことでありました。

私たち信仰者は、どれほど年齢を重ねて、また経験を重ねても常に求道という上には心を低くして、教祖の教え、ひながたに対して、心を低くしてこの道を求めていかなければなりません。悟りというものは、いくらでも深まっていくということを忘れずに、生涯が成人の歩みの道中だと心得て、また、お互いにそういった心構えを若年層の育成に関わる者の

基本姿勢として、同じ思いを持ち合わせていかなければならないと思います。現実に活動としての具体論ももちろん大切なことではありますけれども、まずはそういう意味で育てる側の覚悟ということを申したのであります。

もう一点、育てる側として気をつけなければならないことは、「相手がある」ということであります。誰をどのように育てようとするのか。一人ひとり皆違うのであります。これを私たちがしっかりと、はっきりと意識することが大切であります。育てる側がこういうことを若い人たちに伝えたいと。こういうことを知ってもらったら良いのではないかと。これを一方的に提示をしていても、相手がその提示を見ているか。また、その提示の仕方が相手にとって適正であるかどうかは、相手に聞いてみなければ分からないのであります。その一方的な提示が、まさに一方的で終わってしまったり、お仕着せのようなものになっていたりしないかということは、私たちが常に確認をしなければならないことだと思っています。

もうかなり以前のことになりますが、学生生徒修養会が大きく姿を変えたことがありました。それをもって学修が急激に大きな支持を得た時代がありました。具体的にはＨＡＲＰを中心とした当時の新しい手法を取り入れたということもあったと思いますが、私は今から思えば、当時の学担の方々が一生懸命に考えてくださって、そして、やはり相手の存在、高校生であったり大学生であるその相手の存在を、しっかり意識したものになったからだというところが大きな要因だったのではないかと思います。これは私たちのおたすけについても申せることですが、教えに沿って正しいことをいくら相手に伝えようとしていても、相手にそれがちゃんと理解でき

て、伝わっていなければ、それが正しかろうが間違っていようが、どうにもならないのであります。丁寧さがなければ、逆に不信感に繋がることさえある訳であります。相手が学生さんなど若い人の場合には、特に親子の関係において、この傾向は今も非常に危惧しなければならない状態があると認識しております。我が子が思うように信仰に前向きになってくれない。そういった悩みを持つお道の仲間は大勢おられます。しかし、そういった方に、ちゃんと子どもさんと向かい合って話したことがあるか尋ねてみると、ちゃんと話したことは一回も無い。子どもとそういった話はしたことが無い。と言う方が結構おられるのであります。話したことが無いのに相手に伝わらないと悩むとは、普通ではありえないことであります。伝わっていないのかどうかも実は分かっていない。どういう風に相手が思っているのかも分からない。それも実はすべて想像の話なのです。私たち自身にも若い頃には大なり小なりの反抗期というものがありましたように、学生さんたちはもちろん、若い人たちの気持ちや考え方を、私たちは頭を低くして考え、そして察して、足りない所を足していくという姿勢が大事なところであります。ただ、その足りない所を足していくということについては、自分だけではなく、周囲の人たちの力も大いに借りることが大切であって、そのことも私は一手一つに繋がる大きな要素であろうかと思います。

私は学生時代には学生会には全く参加したことが無い狼藉者でございました。しかし、少年会の活動については私も子供の頃がありましたので、当時の少年会担当の先生というのは、私にとっては今もやっぱり少年会の先生なのです。そういう気持ちがずっとあります。これは恐らく皆さんも同じよ

うなところがあるのではないかと思います。昨年の学生担当者大会でも申しましたが、今、学生担当の役を担っておられる皆さんが相対している学生生徒さんは、皆さんが一生付き合いのつもりで育てていただきたいと思うのであります。少なくともそういう気持ちを持って、相対していただきたいと思うのであります。こちらが、学担の任期を終えて、その任務を一応終了して、また、相手が学校を卒業して、もう学生会ではなくなった。そういう、お互いに立場が変わりましても、ずっと心にかけて育てていただきたいと、そういう気持ちをどうかお持ちいただきたいと思うのです。何故ならば、皆さん方が任期を終えた次に学生担当委員になられる方々は、その時の学生さんたちを相手にする訳であります。だから、やっぱりその時に担当していた人たちが、持ち上がっていく。持ち上がっていくと言うとおかしな言い方かもしれませんが、私はそういうことが人の育成ということには大事なことだと思いますし、また、そういった気持ちが若い人たちにも、相手にも伝わっていくものだと思うのであります。

一方で、今日は直属教会の会長さんもおられますけれども、教会の会長さん、また大教会長さんたちは、学生担当委員会という立場とは違う立場でありますので、やっぱり全員をずっと見守っていただきたいというのが願いであります。また、それぞれ個々の教会の会長さんたちは同じように、やっぱり自分の子どもをはじめ、人数の多い少ないはともかく、若い人たちを一人残らず心をかけて育ててあげていただきたいと思うのであります。教会長後継者だけではなくて若い人たちみんなが、子どももみんなが生涯道を通る、どこかの教会へ繋がる、その為にはどういう示唆をしてあげることが必要なのかを、一人ひとりに考えてあげていただきたいと

思うのです。そして、適切なタイミングを図って、分かりやすくなるように工夫をして、声をかけていただきたいと思います。若い人たちは親の一言を待っています。それも一対大勢ではなくて、一対一の声かけを待っているのであります。どうかその子どもたちの、若い人たちの気持ち、心を察してあげていただきたいということを、改めてお願いを申したいと存じます。

昨年から今年の前半三月まで、後継者講習会を開催いたしました。こういう時には真柱様もこのことをご注意くださいましたけれども、こんな時になると絶好の旬のように思って、「しっかり育てよう」ということを声をかける。しかし、やっぱり続けなければならないということであります。後継者講習会もここ三回、十年おきにつとめて参りました。その度に声を大きくして、若い人の育成を申して参りました。また、それについては教会や地域においてもその思いを受けて、いろいろと取り組んでくださっているところであります。しかし、何度も申しますが、いくら良い行事をして成果を出しても相手の顔ぶれはどんどんどんどん変わっていくのでありますから、ここにはやはり根気というものが必要だということであります。

例えば、布教、にをいがけ、おたすけということを考えればよく分かりますように、布教、にをいがけ、おたすけということは、救けていただいた人が、救けられた人が今度はようぼくとなって、人様を救けるように成人してくれれば、ある意味そのにをいがけ、おたすけは一つの目的を果たすということが言えるのではないかと思いますが、若い人を育てるのも同様であります。皆さんが育てようとする学生さんたちが、二十年経てば今度はその時の若い人たちを育てる立場に

なっているということであれば、それは私たちの大きな喜びに繋がるのではないでしょうか。それを楽しみに根気よくつとめていくのであります。また、一生付き合いをみんなが続けていくのであります。学生の間だけでは短いのでありますが。「横の布教」、「縦の伝道」と申しますけれども、私はこういった若年層、若い人たちの育成は、将来に向けての布教だと考えれば分かりやすいと思っております。横に広げていくための布教、にをいがけ、おたすけに根気が必要であるのと同じように、この将来に向けての布教も同じように根気が必要であります。また、細やかな声かけや心遣いも同様に欠かせないことであるという認識を、もっともっと教内の育成に携わる者たちがしっかり認識を植え付けていかなければならないと思います。

お道は、教祖の教えを我が心に治めて、生涯この道を通るという若者をもっともっと育て、増やしていかなければなりません。どうかこれからも皆さん方の心と力を一つに合わせていただいて、目的を明確に、また細やかにお持ちいただいて、これからも学生担当委員会の充実と発展の上にお力添えをいただきたいと存じます。同時に学生層の周囲にいる若い人たちにも育ってくれることができるように、何よりも親神様の自由自在をいただいて、お導きをいただけるように力を合わせ、「オール天理」の気持ちで頑張って働きかけをしていきたいと思います。これからも、こういった活動の上に力強い後押しを頂戴することを改めてお願いを申し上げまして、挨拶とさせていただきたいと思います。どうぞこれからもよろしくお願いを申し上げます。

（文責　松村孝吉）

学生担当委員会発足四十年記念　学生担当者大会における松村委員長挨拶（要旨）

十一月二十五日・第二食堂

本日は学生担当委員会発足四十年記念学生担当者大会を大勢の皆様方のご参集のもと、こうして賑やかにつとめさせていただくことができました。誠にありがとうございます。また、皆様方には常日頃、学生層の育成の上に教区、また直属、それぞれの場にて、ご丹精をくださいますこと、誠にありがとうございます。本日は真柱様ご身上、ご静養のため、表統領先生より学生層の育成にあたる私どもに育成者としての心の置き所についてお仕込みをいただきました。頂戴しましたお言葉をお互いの胸に治め、指針とさせていただいてつとめて参りたいと思います。

さて、学生担当委員会は昭和五十三年の発足以来、時代時代に応じた育成をつとめてきました。その先輩方が積み上げてくださった経緯と実績を引き継いで、これからも活動をしていきたいと思っておるところです。

また、学生担当委員会の四十年の歩みというものは、真柱様より旬々にお言葉を頂戴し、その都度親の声を頼りに、どうしたら学生が教祖のようぼくとして育ってもらえるかを考え、活動を進めてきた四十年でもあります。三代真柱様からは「次代を担う若い人たちを育てるということは、にをいがけ・おたすけだと思うんです。にをいがけ、おたすけの心でやらなければ、できないと思うんです」と、まずもっておたすけの心で育成につとめることをお仕込みいただきました。日々の活動はもちろん、諸行事を通して、常にスタッフが学生生徒たちに対して、お道の素晴らしさ、教祖の御心、たすけ心を持って接しさせてもらおうと声をかけ、今も取り組ませていただいております。また、真柱様からは「育てる側にある者が、神一条の精神を忘れて我が身勝手な心で人を育てようとしても、育つものではない。学生担当者に限らず、育てる者が、まず自ら育つ道を探り、人を育てることを意識することもさることながら、先に立つ自分が育つ努力を意識してすることが肝心でありましょう」と、育てる側が育つ努力を怠らずに、その姿を学生に映していくことが育成というものであるということをお仕込みいただいております。学生会、また、学生担当委員会では様々な行事を企画し、運営しておりますが、その行事や日々のやりとりの中で、道の少し先を行く先輩として、教祖のひながたを頼りに道を一緒に通りながら、その通り方、受け取り方を学生たちに示していくのが、私たち育成者の立場であるのだと思わせていただきます。

学生が行事を楽しもうとすることは自発的にもできることです。また、ある程度は行事を通して、自分たちで教えを学び信仰を振り返ってくれるとも思います。しかし、行事の中で生じる、また、普段の生活の中であたわる様々なふし、悩みというものに対して、どのように悟り、どのように乗り越えるかということは、時に学生一人で思案するには難しいものがあるかもしれません。また、現在は情報網の発達により、教内外問わず、様々な情報、良い情報もいらぬ情報も、学生たちが容易に収集できてしまう、この世の中にあります。信仰の浅い若者が本当に必要な情報を取り出すことは、困難になってきているように思われます。そのような時、道の先をゆく私たちが学生が出会う困難を一緒に考え、信仰者として歩むべき正しい方向を示してあげるということは、育成者としての一番大切な役割だと思います。学生とのそんなやりとりが彼ら彼女らが社会人になってから、道を通る上での経験となるのであります。そして、試練を乗り越えることで得られた喜びが、将来この道を通ろうという決心にも繋がっていくのだと思います。

真柱様は、私たちが行事や日々の付き合いを通して、「学生たち一人ひとりの心が成人するように方向を示し、そこに辿り着くことができるよう導く、いわゆる内面の世話取りに重点を置くことがより望ましいのだ」そのようなお話をくださいます。一人の学生が教祖の一ようぼくとして育ってくれるよう、コツコツと丹精させていただくことが、この道が将来、大きく続いていく一歩一歩になるのであります。そんな先の楽しみに思いを馳せながら、この担当のご用をニコニコとつめさせていただきたいなと、そんなことを思っております。

これからも、私たちが誠の心を持ち、絶えず教祖を慕って、そして、本日頂戴したご講話を心として、共々に力を合わせ学生層の育成に精一杯に取り組ませていただきたいと思います。最後に皆さまの変わらぬお力添え、そして、共に歩んでいただくことを重ねてお願いを申し上げまして、挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

立教182年 学生担当委員会 行事計画

月	学生担当委員会行事
1	おせち学生ひのきしん隊 直前研修会（4） おせち学生ひのきしん隊（4～7） 例会（25） 学生生徒修養会 大学の部 スタッフ事前研修会（27～29） 学生生徒修養会 高校卒業生コース スタッフ事前研修会（27～28）
2	例会（25） まなびば研修会（26～27）
3	学生生徒修養会 大学の部 スタッフ直前研修会（1～3） 学生生徒修養会 大学の部（3～9） 学生生徒修養会 高校卒業生コース スタッフ直前研修会（9～10） 学生生徒修養会 高校卒業生コース（10～12） 例会（25） 春の学生おぢばがえり（28）
4	例会（25）
5	直属担当者懇談会（25） 例会（25） 学生生徒修養会 高校の部 準備会議（26）
6	例会（25） 学生生徒修養会 高校の部 スタッフ事前研修会（27～28）
7	例会（25） こどもおぢばがえり学生ひのきしん隊（25～8/5）
8	学生生徒修養会 高校の部 スタッフ直前研修会（7～9） 学生生徒修養会 高校の部（9～15） 教区担当者懇談会（25） 例会（25）
9	道の学生ひのきしんDAY 例会（25）
10	例会（25）
11	学生担当者大会（25）　例会（25） 育成に役立つ研修会（27～28）
12	例会（25）

立教百八十一年　育成に役立つ研修会　開催報告

十一月二十七日から二十八日の二日間、本部第七・八・九母屋を会場に「育成に役立つ研修会」を開催し、教区・直属・海外からの申し込みに加え、来春開催の「学生生徒修養会 大学の部」「学生生徒修養会 高校卒業生コース」を初めて務める係員を含めた百六十名が受講しました。

研修会は、プログラム体験コース、サポートコース、プログラムミングコースの三つに分かれて進めました。

各コースとも理解を深める充実した研修会となりました。

【コース説明＆コース受講者感想】

■プログラム体験コース内容

プログラム体験コースでは、学生層育成行事で使用しているプログラムの有効性を体験するとともに、その心得を学ぶことをねらいとしました。「プログラムについて」の講義を行いました。

【プログラム体験コース受講者感想】

・聴くということは、相手を認めることにもつながるのだと感じました。

・見る視線、態度によって新たな一面を見つけられるのだと思いました。

・実際に体験することで、学生の気持ち、考え方が少し理解できたと思います。

・今回学んだことを大教会、自教会でぜひ生かしたいです。

■サポートコース内容

サポートコースでは、各種育成行事のプログラムに活用できるウォーミングアップやアイスブレイク、エクササイズの習得をねらいとし、ウォーミングアップやエクササイズの体験及び解説に加え、「トレーナーの心得」についての講義を行いました。

【サポートコース受講者感想】

・人との接し方で、自分が気をつけるべきこと、反省すべきことを知ることができました。

・プログラムもさることながら、トレーナーさんの心配りなど、立ち振る舞いからも多くのことを学びました。

・「聴く、見る、話す」は育成に限ったことではなく、おたすけの原点だと感じたので、日常から意識すべきだと思いました。

■プログラミングコース内容

プログラミングコースでは、各種育成行事の企画、立案、プログラム作成、運営について学び、行事開催の意識を高めることをねらいとし、プログラム作成の実習及び解説に加え、「プログラミングについて」の講義を行いました。

【プログラミングコースの感想】

・今後の行事を企画する上で、良い刺激を得られました。

・普段からの学生との関わり方の大切さを改めて感じました。

・教会内でこのコースをもっと受講してもらい、よりよい行事作りができるようにしたいです。

第五十六期天理教学生会委員長選挙　結果報告

十一月十日、おやさとやかた南右第二棟を会場に第五十六期天理教学生会委員長選挙が行われ、運営委員二十八名が出席し、傍聴者十名が訪れました。

はじめに、今回の立候補者である板倉克真君（天理大学二回生）が、所信表明において「第五十六期は、『笑顔の種をまく学生会』を目指します。教祖から教えていただいた、人を思い、おたすけをすることの喜びと楽しさを心に留め、人と人とを笑顔で繋ぎたいです。その笑顔のサイクルを学生会の仲間と作り、天理教を信仰していない周囲の人にまで広げることで、学生会や天理教に繋がっていない人にも、陽気ぐらしの雰囲気を匂わせるような学生会を目指します」と、第五十六期天理教学生会にかける思いを述べました。その後、運営委員による活発な質疑応答が行われ、学生たちは立候補者の答弁に真剣に耳を傾けました。投票の結果、板倉君が次期委員長として信任され、参加者一同は次期委員長を芯とし、来春から始まる第五十六期天理教学生会の一層の充実を誓いました。

Happist２月号　予告

連載

・教理コーナー
おやじの小言!?　山中 修（大典分教会長）

・信仰エッセー
明日の地図ひろげて　平井 直子（泉道分教会長夫人）

・発見がある 心が踊る
私立はっぴす学園　渡辺 一平

・マンガ
ココロtravel　ニシカワヨウコ

センターカラー
年間行事紹介
TSA PERFECT GUIDE

明日につながる学生マガジン Happist Z

※内容は一部変更になる場合があります。

北陸ブロック　大学生の集い
Work & Talk 2018 in 福井　開催報告

十一月十日から十一日にかけて、福井教務支庁を会場に「北陸ブロックWork & Talk 2018 in 福井」が開催され、六名の学生が参加しました。

初めは緊張していた学生も、ウォーミングアップやグループタイムとプログラムが進んでいくうちに打ち解け、活発に意見を交わすようになりました。

おつとめ練習では先生から手振りの意味などを交えた説明を真剣に聞き、朝夕のおつとめに対する心構えなどを新たにしました。

また「ご恩」についての講話を聞いて、何気なく過ごしている暮らしの中で、色々なところにある親神様のお働きを再確認し、それらを発表し合いました。

最後に、二日間を振り返るとともに、各教区学生会の盛り上がりと、次回のWork & Talkに向けて内容、動員について話し合い、有意義な二日間を締めくくりました。

◆参加者の感想

初参加で緊張したけど、学生同士で楽しく交流ができ、有意義な時間を過ごすことができました。

（大学二年生　男子　初参加）

いつも福井教区でしか活動していなかったので、分からないことが多かったのですが、北陸ブロックの学生会の委員長さんと話したりすることで、心強かったです。

（専門学校二年生　女子　二回目）

青空

教祖百三十年祭三年千日一年目の年、八月本部学担例会の席上、天理教学生会の組織に直属学生会が合流するという話が出た。その中にいた私は、驚きと感激で「やった！」と声が出そうになった。

約三十数年前。教祖百年祭三年千日に入ってすぐ、おぢば管内にある直属教会の学生会を中心に「教祖百年祭三年千日学生決起大会」が開催された。

一人の学生が、真柱様の「学生の立場でも教会になくてはならないメンバーになってほしい」と言うお言葉を受けて、何かさせて貰いたい一心で呼びかけ、その声に賛同した学生が集まった。私もその中にいた。一人の思いが、それこそ胸から胸へ伝わっていった形である。

その直後、当時学生担当委員会委員長をされていた橋本武人先生が私たちの思いに耳を傾けてくれた。その年から、学生会総会（当時）に直属学生会も参加することが出来るようになった。

それから三十年。一人の若者の真実が大きく流れを変え、一つの組織が理想の形へと変わっていった。親神様の絶大なるお働きに胸を打つ。「感激！」

和歌山教区学生担当委員会前委員長　木村重喜